

第 56 回日本核医学会学術総会 印象記

今井 昌康

Imai Masamichi

2016 年 11 月 3 日(木)から 5 日(土)まで、名古屋国際会議場にて第 56 回日本核医学学術総会が開催された。恒例のごとく、核医学技術学会総会学術大会との合同開催である。

この会場は正面玄関のある 1 号館(写真 1)からハの字型に 2 号館、3 号館があり、一番奥に 4 号館がある。中央は広場になっているが、そこに大きな騎馬像があるのが印象的だった(写真 2)。原型はレオナルド・ダ・ヴィンチの未完の作品であるスフォルツァ将軍の騎馬像で、彼が残したデッサンを元に現代の技術を駆使して再現したもののである。騎馬像の近くには抹茶を提供するブースが設けられ、参加者の休憩所として賑わっていた。

今回の大会は大会長として国立長寿医療研究センターの伊藤健吾先生、副会長として藤田保健衛生大学の外山宏先生及び名古屋大学の加藤克彦先生の下で開催された。テーマである「健康長寿社会をめざして—核医学の挑戦—」にあるように、「長寿」を

意識した企画、認知症をテーマにしたプログラムが多く組まれていた。

新たな試みとして、核医学が専門でない医療関係者や研修医、医学生向けのセミナーがあった。その一つが「認知症まるわかりセミナー」である。大変な盛況で、立ち見の聴講者も多く、会場入口外にも聴講者がいたようである。内容は「認知症とはなにか」といった総論的内容から、MRI、脳血流シンチグラフィなど臨床現場ですでに利用されている画像モダリティ、FDG、アミロイド、タウ PET といった一部研究段階の各種画像について、さらに認知症に対する治療戦略や介護サポートまで、幅広いものであった。質疑応答ではアミロイド PET、タウ PET の標準化に関する課題も提言され、脳核医学を専門にしている医療関係者も得るところの多い内容だった。



写真 1 1号館の正面ホール

非常に大きな吹き抜け構造のホールで、学会名とテーマを記した垂れ幕がある



写真 2 スフォルツァ騎馬像

会場中心の広場にある 8 m を超える巨大な像で、4号館向きに設置されている

たと思う。

また、2015年度から日本核医学会に看護師会員が設けられたことに伴い、看護師向けフォーラムが今回も行われた。本フォーラムの後半は認知症患者の核医学診療、PET検査、医療安全、介護に関するもので、近年増加している被験者が認知症患者である場合の看護について、包括的に学ぶことができるものだった。

Voice of Customer は「長寿」とからめて、「核医学装置の長寿を目指して」と題したフォーラムが組まれた。核医学検査装置を長期に撮像品質を維持しつつ安全に使用するためには日常点検が不可欠である。撮像装置により細かい点検項目が少しずつ異なっているが、各撮像装置メーカーごとに講演があったためそれらをよく整理できた。同じテーマで一度に多数の装置メーカーの話を聴ける機会は貴重だと思う。

教育講演では福島原発事故後の講演が組まれた。その中でときどき週刊誌を賑わせる小児若年者の甲状腺癌の話があった。本大会開催時は東日本大震災から5年目にあたるが、甲状腺スクリーニング検査は2巡目が終了している。チェルノブイリ事故後調査と比較して、発見される甲状腺癌の特徴が異なっていること、全例調査によるハーベスト効果もあり、原発事故後の影響で甲状腺癌が増えたとはいえないと結論付けていたのは印象に残った。無論、この問題に関しては様々な解釈があるが、短絡的に「事故後、子どもに甲状腺癌が増えた」と考えるのは避けるべきということを再認識した。

特別企画として昨年4月に起きた熊本地震の講演も組まれた。地震の影響の大きかった地域の済生会熊本病院からは、病院が被害を受けた状況下で急増する被災患者と通常の患者（特に透析など継続的に治療が必要な患者）をどのように診療していくか、生の声を聴くことができた。また、熊本大学病院からは、被災地の大学病院として役割、震災を経験し



写真3 MIRAI 展示
手前に試乗受付デスクがある
(担当者に許可を得て撮影)

た立場から協力体制構築についての話を聴くことができた。筆者も勤務病院の震災時マニュアルをもう一度見直す必要があると実感させられた。

機器展示会場では一風変わった展示として、トヨタから水素の化学反応を利用した燃料電池自動車MIRAIのブースがあった(写真3)。トヨタのお膝元である名古屋らしい展示である。試乗受付デスクもあり、予約すれば試乗可能だったようだが、本学会の濃密なプログラムで時間的余裕がなく、残念ながら試乗はあきらめた。排気ガスが出ないMIRAIは自動車のイノベーションといえるが、水素ステーションの少なさが現段階の普及のネックだろう。なお、愛知県にはすでに20か所くらい水素ステーションがあるそうである。

次回、第57回日本核医学学会総会は例年より少々早く、2017年10月5日から7日まで、横浜市立大学大学院医学研究科の井上登美夫先生を大会長として横浜で開催される予定である。今後も核医学学会のますますの発展を祈りつつ、締め言葉に替えさせていただきたい。

(虎の門病院 放射線科)